

# 事業実施報告書

法人名 特定非営利活動法人わが街さやまの防災ネットワーク

事業名	防災カフェ事業						
助成枠の種類	特定分野事業ネーミング枠 (損保ジャパン代理店JSA中核会防災・地域安全支援事業)						
1. 事業の目的	<p>いつ何時、起きるか予想出来ない大災害において、要援護者を置き去りにしないよう、日頃より防災カフェを開催し「顔の見える関係」そして「絆づくり」を目指してきました。</p> <p>コロナ禍の為、カフェは中止せざるを得なくなりましたが、会場人数を制限するなど入念な感染防止対策を講じ、講演会形式で3回開催し、講師も計6人を招へいして、多様な角度からの防災啓発を行います。</p>						
2. 事業で取り組んだ地域や社会の課題	<p>超高齢社会の中、災害時の要援護者は一層増えています。それに加えてコロナ禍にも見舞われ、途方に暮れています。しかし、どのような形でも、従前通りの気持ちを維持して一步も怯む事なく、取り組んでいきます。</p> <p>これまで協力体制を取っていた、地域の活動団体、例えば、狭山しみん大学、消防団、社会福祉協議会、民生委員・児童委員協議会等々の方々とは、対面が制限されているため、共同で事業を実施することが困難な状況があります。しかし、コロナ禍においてもこうした防災の取り組みは継続していく必要があります。</p>						
3. 取り組んだ事業の具体的な内容・実施結果	<p>防災カフェ事業</p> <p>これまでの防災カフェ事業に代えて、コロナ禍に対応し、防災講演事業として、予定どおり3回実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回 令和3年11月7日(日) 14:00~16:00 参加者: 52人</li> <li>・第2回 令和3年12月11日(土) 14:00~16:00 参加者: 36人</li> <li>・第3回 令和4年1月16日(日) 14:00~16:00 参加者: 26人</li> </ul> <p>各回の内容については、別添のチラシ参照。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">時期</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7月</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	時期	内容	7月		8月	
時期	内容						
7月							
8月							

	<table border="1"> <tr> <td>9月</td> <td>準備・打ち合わせ</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>準備・打ち合わせ、講師依頼</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>第1回開催 狭山市立入曽市民交流センター</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>第2回開催 狭山市立中央公民館</td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td>第3回開催 狭山市立中央公民館</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>結果のとりまとめ</td> </tr> </table> <p>○ 広報実績について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当法人のホームページ&amp;フェースブック</li> <li>・狭山市の地域情報サイト「さやマルシェ」へ掲載</li> <li>・各公民館・地区センターにチラシ配布</li> <li>・開催地区の自治会連合会会長会議にて趣旨説明、出席依頼</li> <li>・さやま市民大学「地域の防災リーダー養成講座」修了生に案内</li> </ul>	9月	準備・打ち合わせ	10月	準備・打ち合わせ、講師依頼	11月	第1回開催 狭山市立入曽市民交流センター	12月	第2回開催 狭山市立中央公民館	1月	第3回開催 狭山市立中央公民館	2月	結果のとりまとめ
9月	準備・打ち合わせ												
10月	準備・打ち合わせ、講師依頼												
11月	第1回開催 狭山市立入曽市民交流センター												
12月	第2回開催 狭山市立中央公民館												
1月	第3回開催 狭山市立中央公民館												
2月	結果のとりまとめ												
4. 事業実施により達成した成果の具体的な内容	<p>コロナ禍が少し落ち着き、オミクロン株が猛威をふるう前に事業が終了出来ました。人数制限の為、やむなく参加をお断りした方々もかなりいました。</p> <p>日頃より、当法人の活動を見守って頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。従来の防災カフェが出来ず、講演会という形になりましたが、多くの方々にお越し頂き、今迄の活動の積み重ねを了として頂いたと少々自負しております。又、講師の方々も多士済々で防災に対して、多面的に捉えご講演頂いたのは、私達にとりましても、とても勉強になりました。市の連合自治会長には3回とも参加いただき、地域の自主防災のこれからの在り方をどの様にしたら良いか考える良い機会を貰い、この内容を各地域に反映していきたいとお話でした。</p> <p>当法人の理事はじめ、会員各位・ご協力者の皆様が心を一にして、取り組んで頂き、涙がでるほど嬉しかったです。コロナ禍という国難の中、ともすると俯きがちになりますが、何としても初志貫徹して、今迄の活動をなお一層広げていきたいという思いを強く致しました。</p>												
5. 費用面での工夫	<p>会計担当の理事とも相談しながら、費用については慎重に割り出していました。交通費については、コロナ感染に注意しつつ、なるべく1台に乗り合わせとして節約しました。講演会の録画・編集、DVD作成については、外注すると高額になるので、スタッフにお願いして、機材も持ち込んでもらい、作成しました。</p>												
6. 地域社会への還元について	<p>項目の2でも報告しましたが、何と言っても「地域」の協力無くしては、防災は身動き出来ません。</p>												

	<p>お陰様で、今迄の活動が地域に根づいて来たという実感が湧いてきました。この事業を開催した成果だと思えます。</p> <p>これからも地元市を始め、2の項目にあげた団体と緊密に連携を取りながら、一人も置き去りにしないを旗印に頑張っ参ります。</p>
<p>7. 来年度以降どう事業を継続し発展させていくか</p>	<p>現状、オミクロン株が蔓延し、パンデミック状態です。対面等の安全性が担保されれば、防災カフェの開催、さやま市民大学での「地域の防災リーダー養成講座」を開講していきます。</p> <p>そして、上記講座の修了生による団体「赤い帽子の会」を立ち上げるべく活動を開始します。7年間にわたって、開講し約150人の修了生を輩出しています。市からの要請の自主防災組織が縦軸とすると、横糸を紡ぐ役を務めるよう取り組みます。</p> <p>各地区が情報共有しないと大災害に立ち向かえません。情報の混乱・錯綜が2次災害を生むのは過去の事例からも自明の理です。</p>